

平成 25 年 7 月 2 日	病虫害発生予報 7 月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
--------------------	-------------------------------	------------------------

平成 25 年度茨城県農薬危害防止運動期間中です(6/15～9/14)

～ 薬剤散布時には，農薬の飛散防止に努めましょう～

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
水稻：いもち病(葉いもち)，縞葉枯病	1
水稻：斑点米カメムシ類	2
【防除所レポート】 ：6月下旬のイネ科雑草地におけるカスミカメムシ類の発生状況	2
水稻：イネツトムシ	3
ナシ：黒星病	3
ナシ：ナシヒメシンクイ(第二世代成虫)	4
【防除所レポート】 ：積算気温によるナシヒメシンクイの防除適期の予測	4
【その他の病虫害】	5
水稻，サツマイモ，ナシ，ブドウ，果樹共通，抑制トマト，夏ネギ	
II. 今月の気象予報	
	6

水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに，止水期間を1週間程度とすること。

最新の農薬登録内容は，(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病虫害防除所 Tel :029-227-2445
予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>
フェロモントラップデータ随時更新中

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在，調査圃場の葉いもちの発病度¹⁾は平年並（本年値0.3，平年値0.2）である。
- ② 6月下旬現在，調査圃場周辺における葉いもちの発生は，平年よりやや少ない。
- ③ 6月におけるいもち病の感染好適日（BLASTAM²⁾による）は，6月19～21日にみられたことから，6月末から7月上旬に発生が増加すると予測される。

1) 発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

2) BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム

[防除上注意すべき事項]

- ① 稲の葉色が濃い所や水口等を観察し，初発の確認に努める。
- ② 例年，梅雨明けまでは発生が増加するため，現在発生がみられない水田でも今後とも注意する。
- ③ 発生がみられる水田では，防除を実施する。なお，粒剤で防除する際は，必ず湛水状態で薬剤を散布し，薬剤の効果や環境への配慮から1週間は止水して，湛水状態を保つ。その後，生育に応じた適正な水管理にもどす。
- ④ 置苗は，いもち病の発生源となるため，現在水田に置苗がある場合には，水田及びその周辺に放置せず，持ち出して土中に埋める等の処分をする。

2. 縞葉枯病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い～多い	県西地域

[予報の根拠]

- ① 6月上旬の県西地域の小麦畑で採取したヒメトビウンカ第一世代幼虫におけるイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率を検定したところ，10%以上の高い地域があった。
- ② 6月下旬現在，県西地域で本病の発生が見られる地域がある。

[防除上注意すべき事項]

- ① 昨年本病の発生が見られ，ウンカ類に登録のある育苗箱施薬を行わなかった水田では，早急にヒメトビウンカの防除を行う。（平成25年6月20日発表 病害虫速報 No.2 参照）

(水稻 続き)

3. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、有効積算温度から予測したクモヘリカメムシの産卵開始時期は、平年並と推定される。
- ② 6月下旬現在、水田付近のイネ科雑草における斑点米カメムシ類の発生地点率は平年より高く（本年値 83%，平年値 51%），すくい取り虫数は平年より多い（本年値 10.9 頭，平年値 7.0 頭）。
- ③ 6月下旬現在、水田付近のイネ科雑草において、本県の主要種であるクモヘリカメムシは平年同様確認されていない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 農道や畦畔等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の生息場所となるため、除草を徹底する。ただし、出穂期近くになってからの除草は、斑点米カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂 2 週間前までに終わらせる。また、水田内のイネ科雑草やカヤツリグサ科雑草も斑点米カメムシ類を誘引するので、除草に努める。
- ② 出穂が周辺よりも早い水田では成虫の飛来が集中しやすいので、発生には十分注意する。
- ③ 出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は、防除を実施する。

防除所レポート [6月下旬のイネ科雑草地におけるカスミカメムシ類の発生状況について]

- ① 本県における斑点米カメムシ類の主要種は、クモヘリカメムシであるが、他県ではカスミカメムシ類のアカヒゲホソミドリカスミカメ（以下アカヒゲ）やアカスジカスミカメ（以下アカスジ）が斑点米カメムシ類の主要種となっている地域も多く、本種の発生にも十分注意が必要である。
- ② 6月下旬現在、水田付近のイネ科雑草におけるアカヒゲ、アカスジのすくい取り虫数は、平年より多い。特に県西地域で多い発生となっている（表）。

表 アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメのすくい取り虫数の結果
(頭/10回振り)

		全県	県北	県央	鹿行	県南	県西
アカヒゲ	本年	6.6(1)	9.5(1)	2.1(2)	0.5(4-5)	6.7(1)	16.4(1)
	平年	1.7	2.2	1.1	1.2	1.8	2.4
アカスジ	本年	3.4(1)	1.3(2)	4.0(1)	1.0(2)	1.9(5)	8.9(1)
	平年	1.1	1.7	0.5	0.3	1.8	1.4

※ () は過去11年中の順位，全県の発生地点率は本年70%，平年31%

(水稻 続き)

4. イネツトムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、発生地点率は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 葉色が濃い水田に集中して産卵するため、飼料用稲では特に発生に注意する。
② 被害が大きくなる第二世代幼虫の発生は7月中旬から下旬と考えられるので、水田を観察し、幼虫が小さいうち（葉先が巻かれ始めた時期）に防除を行う。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、発病果率（本年値 0.4%、平年値 0.3%）、発病葉率（本年値 0.8%、平年値 0.9%）ともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実及び葉は二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める等、適切に処分する。
② 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

(ナシ 続き)

2. ナシヒメシンクイ (第二世代成虫)

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並～やや早い	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在, 次世代成虫(第二世代)の発生時期は, 第一世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から, 平年並～やや早いと予測できる。
- ② 6月下旬現在, フェロモントラップへの第一世代成虫の誘殺数は, 小美玉市及びかすみがうら市で平年より多く, 笠間市, 石岡市及び土浦市では平年並である。
- ③ 6月下旬現在, 被害果率は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は, 土中深く埋める等速やかに処分し, 次世代成虫の発生を防ぐ。
- ② 薬剤は, 10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等, 薬液のかかりにくい部分に対しては, 手散布等により補正散布を行う。
- ③ 薬剤散布の時期については, 下記の防除所レポートを参考にする。

防除所レポート [積算気温によるナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第三世代幼虫を対象とした防除適期は, **第二世代成虫の誘殺数が最高に達した日の直後**である。
- ② 各地点の第二世代成虫の誘殺最盛期は, 第一世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から, 表のように予測できる。
- ③ 第三世代幼虫の防除適期は第二世代成虫の誘殺最盛期の直後なので, 表の予測日を参考に適期防除を行う。
- ④ 発生時期の予測は 6 月 28 日現在である。

表 ナシヒメシンクイ第二世代成虫の予測誘殺最盛期

地点	第一世代成虫の 誘殺最盛期 ¹⁾	第二世代成虫の 予測される誘殺最盛期 ²⁾
茨城町	—	7月23日～7月24日
笠間市(旧友部町)	6月第5半旬	7月23日～7月26日
笠間市(旧岩間町)	6月第5半旬	7月23日～7月26日
小美玉市	6月第5半旬	7月24日～7月26日
石岡市	—	7月16日～7月17日
かすみがうら市	6月第3半旬	7月14日～7月17日
土浦市	6月第4半旬	7月18日～7月22日
筑西市	6月第3半旬	7月13日～7月16日

1) 各地点に設置したフェロモントラップへのナシヒメシンクイ第一世代成虫の誘殺最盛期「—」の地点は誘殺最盛期が不明瞭であった。

2) ナシヒメシンクイの発育零点を 11.1℃とし, 第一世代成虫の誘殺最盛期からの有効積算温度が 384 日度となる日を予測した(6月28日現在)。第一世代成虫の誘殺最盛期が不明瞭だった地点は, 越冬世代成虫の誘殺最盛期からの有効積算温度が 768 日度となる日を予測した。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	ニカメイガ	発生量：やや多い ～多い	越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺数は水戸市，筑西市で平年より多く，龍ヶ崎市で平年並である。
サツマイモ	イモキバガ (イモコガ)	発生量：多い	6月下旬現在，平年より多い発生である。
ナシ	ハマキムシ類	発生量：やや多い	6月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	アブラムシ類	発生量：やや少ない	6月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
ブドウ	べと病	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
	褐斑病		
	晩腐病	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。袋かけ前の防除を徹底する。
果樹共通	カメムシ類	発生量：やや少ない	6月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
トマト 抑制	黄化葉巻病	発生量：－	生育初期に感染すると被害が大きくなるので，育苗～定植時期の防除を徹底する。
夏ネギ	ネギアザミウマ	発生量：やや多い ～多い	6月下旬現在，平年よりやや多い～多い発生である。
	ネギハモグリバエ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 6月29日から7月28日)

気象庁(6月28日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	30	50
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 6月29日(土曜日)から7月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<2週目の予報> 7月6日(土曜日)から7月12日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

<3週目から4週目の予報> 7月13日(土曜日)から7月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。